

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県速敷郡上中町熊川

TEL/FAX (0770)62-0330



若狭鯖街道熊川宿は、安土桃山時代より、近江と若狭の国境に位置し、京の都への海産物を始めとする物資の流通拠点として栄えた宿場町でした。

昭和五十六年には文化庁の町並み保存対策調査、六十年には日本ナショナルトラストの調査が行われました。

現在も往時の伝統的景観を良好にとどめ、調査から十五年後の平成八年七月九日に、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。また、建設省の歴史国道、国土庁の水の郷百選にも選ばれました。

また、昨年、中ノ町の電線の地中化、地道風舗装、中条橋の架け替えや、道の駅の建設などの整備が完成しました。

そして今日も、伝統文化の中に住み続けながら、新たな町づくりが進められています。

熊川宿	1
発行に寄せて	2・3
見送り幕が県指定文化財に	3
活動報告	4・5
熊川の行事	6

熊川のまちづくりに寄せる

上中町長 霜 中 衛

熊川宿が、平成八年七月九日に、晴れて国の重要伝統的建造物群保存地区になって、はや四年の歳月が流れました。その当時と比べると、隔世の感、誠に感慨深いものがあります。

振り返って見ますに、八年七月末には、重伝選定、建設省の歴史国道選定、国土庁の水の郷百選認定という、町並み、道路、川に対する国からのトリプル選定を祝う提灯行列がありました。地元の皆様が本当に喜ばれる様子を目の当たりにし、旧逸見勘兵衛家を整備したことを本当によかったですと感したことを思い出します。

その後、年々、皆様の住宅が修理され、町が確実に熊川のなつかしい景観を取り戻していくことを見るのが出来るようになり、街道を通るのがたいへん楽しみとなりました。

そして、昨年十月には、中ノ町の電線地中化・前川の整備・地道風舗装、中条橋の架け換え、道の駅などが完成しました。そして、栗田幸雄知事をお招きして、祝賀パレードが行われたわけです。

選定から、三年ほどの短期間で、このような整備が進むところは、全国でも極めて稀であると感じています。

今後、上ノ町、下ノ町の景観整備実現が課題となるわけですが、町並みから、さらに人並み、つま

りは、人の心と心のつながりを更に大切にされた、伝統に根ざした町づくりを実現していただきたいと、心から念願する次第です。

「フトコロ日記」に学ぶ

上中町教育長 奥本 哲郎

町並み通信「宿場町」が、今回新しく「鯖街道熊川宿」として生まれかわり刊行されるとのこと、心からお慶び申し上げます。

熊川宿に関して強く心に残っていることがあります。一昨年の夏、若狭図書学習センターの講座に参加して、小浜水産高校の雲龍丸にて隠岐へ出かけ、現地の郷土歴史

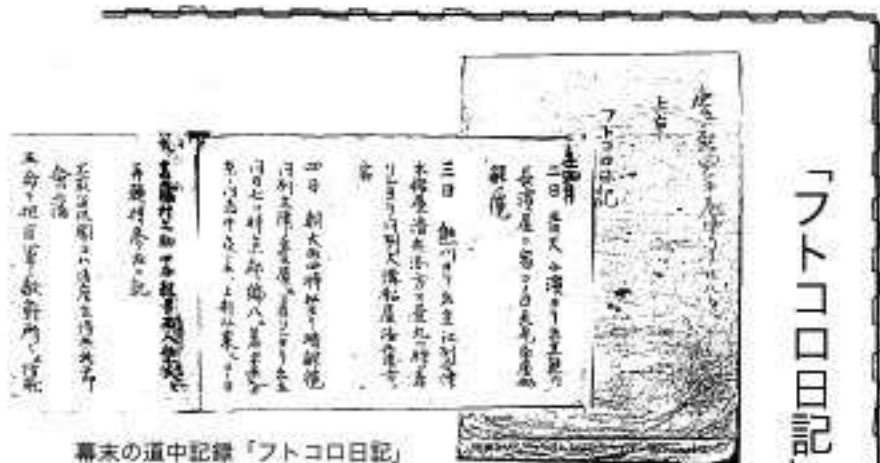
研究者から話を聞く機会がありました。主題は若狭と隠岐のつながりについてで、話のみでなくいろいろな資料も見せてもらいました。その中に、幕末の頃隠岐藩士たちが京都へ上った時の道中記録「フ

トコロ日記」がありました。それによると、一行は海路で小浜に上陸し宿泊、次は熊川で一泊ののち今津へ越え、再び船便にて大津まで行き京都へ出ています。

びっくりしました。思いもしなかったコースだったからです。往時の運搬手段としての船の役目の大きさは理屈としては知っていても、現代慣れの私の頭ではそこまで考えるのは無理でした。

若狭の人が近江や京へ出かけるのと、逆に若狭へ来る人のことしか思い浮かばず、小さな宿場と考えていたのが間違いでした。古いものを残すことは、ひとの意識を変えるのだと実感しました。

今後も伝統的なものの良さを伝えていって欲しいと思います。



幕末の道中記録「フトコロ日記」



中ノ町の電線地中化、前川などが整備されました。

熊川宿は今が旬

熊川区長 藤本 正夫

野山の緑が際立ち、前川疎水の清々しい水音が耳に心地よい熊川宿に、つばめが賑わいを添える季節となりました。

街道には、リュックを背負いカメラを構えた人、スケッチを楽しんでいる人などで賑わいを増しています。

平成八年に重伝建の選定を受けて以来、関係各位のご尽力のおかげで、昨年、中ノ町が整備され、中条橋が架け替えられ、道の駅も完成しました。

家並みにつきましても、徐々に家屋が修理・修景され、昔ながらの宿場町に磨きがかけられてきました。

また、本年には山車に垂らした見送り幕が『県指定有形文化財』に指定されました。

伝統文化を継承していくことは、大変むずかしいことですが、先人の努力を無にすることなく守っていくためには、無理をせず、熊川流に楽しむことが肝要ではないでしょうか。

『古き町に新しく住まう』数年前のまちづくりフォーラムのタイ

トルですが、若者のデートスポット、中高年のやすらぎの宿場町として、皆様に可愛がっていただき、何度も足を運んでいただき、元気いっぱい熊川宿をめぐらせていきたいと思えます。



まちづくりの味付けは区民で

著者熊川宿まちづくり特別委員会

会長 河合 健一

重伝建の選定以来、我々の住む家々が、年々着実に伝統的な建物として修理が進められてまいりました。また、中ノ町の整備や、道の駅、木製の欄干となった中条橋の完成など、景観整備もめざましい勢いで進められてきました。

これら全て、国・県・町の大変なご指導、ご尽力のおかげと感謝いたしております。

そして、ハード事業と並行して、我々区民も、ソフトな活動を進めてまいりました。

一つは、語り部の勉強会です。歴史、伝統的建造物、まちづくりの経緯などの話を通して、熊川を訪

ねてくださる人達を、心からお迎えしようということです。

次に、大正時代に踊られることがなくなった、てっせん踊りの復活です。これには、京都一乗寺伝統芸能保存会の皆様にご指導を頂き、八十年ぶりに、再び熊川で踊りが復活したのです。これを契機に、伝統芸能保存会も発足しました。

さらに、江戸時代から京都で売買されてきた、特産品熊川葛の蔓を使った、蔓細工の商品化です。

これらの多彩な活動を少しずつ定着させてまいりました。

また、本年五月三日の白石神社の祭礼では、かつての山車の屋根を修理してトラックに載せました。今後の山車復活に向けた意気込みを示したわけです。

以上、ハードという綱と具が揃えられたからには、ソフトとしての町づくりの味付けを、熊川の我々自身が更に積極的にやっていきたく思います。

広報誌『鯖街道熊川宿』も、今回より熊川区独自で行い、町・県内外へ発送して、一人でも多くの方に熊川宿に関心を持っていただき、美しい、魅力のあるまちづくりに、皆様と共に頑張りたいと思います。ご協力、ご支援、よろしくお願いいたします。

ちよつとお知らせ

見送り幕が

県指定有形文化財に

白石神社祭礼の見送り幕が、今春、町指定文化財から県指定文化財になりました。

三枚の見送りは、いずれも江戸時代後期に京都で買い求めたものです。

今後は、山車の復活も区民の課題としていきたいと思います。



左から、下ノ町・中ノ町・上ノ町の見送り幕

熊川宿の語り部

宮本 一 男

「ここはまがり。コーナー、コーナー。」「下ノ町まっすく、まっすく。ストレート。」「……………」

今年四月、男性の外人様が熊川のまがりに来られたので、手まねを混じえて話しました。笑顔を返して「サンキュー」「サンキュー」。

昨年八月より語り部一年生の仲間入りをさせて頂きましたが、まだ駆け出しです。足掛け四十年の会社人間が未知の世界に入り、先輩達の教えを請うて勉強中です。

一線を退いてから、子供から「ぼけたらあかん」と再三言われていた人生も新鮮で、明るい未来、熊川も見えてきそうです。

熊川へ見えられるお客様も多種多様ですが、「故きを温ねて新しきを知る」のことわざの如く、短

時間の中でこの熊川宿で何か一つピカッと光るものを見つけ、帰って下さる時、案内して楽しく良かったなあと思います。

私の案内のレバトリの中には、「ゴミ問題」「介護保険」「物価は上がるか」「進むかインターネット」等々、お客様がご婦人か、年配者かを考慮して対話をしながら、ジョークを混じえて、私も楽しみながら案内しています。

時間の関係上、宿場館、旧逸見勤兵衛家、松木神社前で終わってしまい残念です。願わくば、今後、下ノ町整備が進み、下・中・上ノ町と散策しながら、時間に余裕を持った案内がしたいものです。

区民全員が語り部熊川人民になる日も近い将来、来るものと思えます。楽しく笑える「語り部「熊川宿」でありたい」と思っております。



てっせん踊り

伝統芸能保存会

会長 平尾 希典



織田信長、朝倉攻めで熊川に一泊、家来として同行した徳川家康が得法寺の松の根元に腰を掛けた（家康腰掛の松）のが、元亀元年。その前後と思われるので凡そ四百年余り前、比叡山の学僧、鉄扇が踊り始めたとか云われる鉄扇踊りは、念仏おどりとか公家さんのおどりと云われ、優雅な踊りであったようである。今も京都の各所で少しずつ変わった様相で残っている。高野川流域では鉄扇鉄輪節、他、鉄扇節音頭等がある。

熊川へは八瀬大原から伝わり、大正の初期まで踊られていたと、長老の話に聞くことが出来るが、その後八十年余り幻の踊りとされてきた。

昭和四十年頃、若狭歴史民俗資料館の永江秀雄様が、熊川に訪れた水上勉先生に「熊川には昔、特別な民俗行事は無かったのか……」

と尋ねられた。この一言がきっかけで調べ始め、てっせん踊りの唄本を熊川で見ることが出来たと話してくれた事があります。

その後、復活を願いながらも節も踊りの振りも解らず経過し、平成八年重伝建の指定後、復活の気運が高まり、区とまちづくり委員会のメンバーで保存会設立準備を行い、昨年春に熊川宿伝統芸能保存会として発足しました。

会員は決まらず熊川宿みんなの踊りとして、熊川音頭も併せて、京都の一乗寺の皆さんの指導を仰ぎ、定着するまでは月二回、十日と二十日に練習を行います。

誰でも、何時からでもご参加下さい。



山へ行って、蔓を取ってきます。

つる 蔓細工の 出来るまで



お湯に浸けて柔らかくします。いろいろ試しています。



出来あがり。旧逸見勲兵衛家で好評販売中



「ええ形になってきた。」
結構、力がいらいます。



つる 蔓細工を 習い始めて

▽橋こよ

蔓細工を習うまでの私は、蔓に対してあまり良いイメージを持っていませんでした。植林した杉や檜に巻き付けて、大切に育てた木を台無しにしてしまうことも度々でした。町並みの方より蔓細工の講習会を開いて下さり、「あの邪魔者の蔓で何か出来れば」と思い、参加

させていただきました。二回の講習で、何とか形のある物が出来るようになりました。

こんなことで始まった私の蔓細工ですが、今では少しは売れる物が作れるようになり、作る喜びも感じています。あれだけ嫌っていた蔓ですが、手を掛ければ立派に製品として生まれ変わるすばらしさに、心引かれていたこの頃です。まだまだ試行錯誤の最中ですが、仲間と知恵を出し合って良い製品を作り、町並み発展のお役に立てばと思っています。

つるかこ 蔓籠を販売して

平尾悦子

「蔓細工の講習会をしますから、作ってみようと思われ方は勲兵衛家に集まってください。」の呼びかけに、好奇心も手伝って心ときめかして参加した。

一回り二回と会を重ねて行き、今では少し変わった良い作品が出来ると、仲間同士で教え合うようになり、更に良い作品が出来てきます。

籠を買って下さるお客さん、籠を手にとって「これは何の蔓ですか？」この籠にはパンを入れて食



卓に、この籠には花を、新聞入れに、色々楽しい発想をしながら、買って行ってくれる。聞いている私も、ついつられて会話に入り込んでしまう。
楽しみながら、もっともってお客さんを増やして行きたいと思っています。

自然が大好き

松見マサ子

蔓細工をしてみませんかと声をかけられ、みんなと蔓探しから始めました。種類や色、形も様々です。習い始めて二時間程で、みんなそれぞれ違った形のカゴになりました。

山へ行くと、今まで気にしなかった蔓が、たくさん見えてきます。蔓を取ってきては作ってみると、おもしろくなりました。

太すぎて捨てる方が多かったです。なかなか思うように行きません。みんなに聞きながら、一つ出来る。また今度こそはと思います。作品は、旧逸見勲兵衛家で皆さんに買ってもらっています。

山に囲まれた自然を生かして、昔の人が残して下さった自然とのお付き合いを、熊川宿と共に大切にしていきたいです。

白石神社祭礼

5月3日祝

神社で奉納の後、山車と子供みこしが町中へ繰り出しました。仮装行列も行われ、一層賑わいました。



行事予定

- | | |
|--------|------------|
| 6月8日 | 町並み通信創刊号発行 |
| 8月13日 | まちづくりフォーラム |
| 8月15日 | 盆おどり |
| 10月1日 | 町並み通信2号発行 |
| 10月中旬 | 熊川宿秋まつり |
| 10月16日 | 松木神社祭礼 |

あとがき

近年にない大雪で、春が待ち遠しかった本年も、桜の花も散り日増しに緑が濃くなり、新緑の山々の風景と調和した町並みを視察見学される方々が、どんどん見え始めました。

さて、まちづくり特別委員会の機関誌「宿場町」は、平成十年八月の第四十九号からしばらくお休みしていました。が、本年度より年三回の計画で、衣替えをして再スタートすることになりました。

名付けて、町並み通信「鯖街道熊川宿」。本日、第一号をお届けできました。

原稿や写真——どんな分野でも結構です。どんどんお寄せ下さい。

生まれたての広報誌が大きく立派に育ちますよう、皆様のご協力とご愛顧をお願いいたします。

事務局長 中村 隆

